

<後援組織代表挨拶>

本日は、このような大変素晴らしいイベントにおきまして、ご挨拶の機会をいただき誠にありがとうございます。ただいま、ご紹介にあずかりました、日本政策投資銀行設備投資研究所の薄井でございます。後援組織を代表いたしまして、簡単ではございますが、一言ご挨拶を申し上げます。

本シンポジウムは今回で 6 回目を迎えますが、私ども日本政策投資銀行は、今回初めて後援という立場で参加させていただくことになりました。参加の理由は2つあります。

1つは、本シンポジウムのキーワードでもあります「統合的思考」による企業価値向上が、私どもの金融行動そのものとマッチする側面があるからです。私どもの銀行は、2008年以降民営化の道を歩み続けておりますが、「長期性」「中立性」「パブリックマインド」「信頼性」の4つのDNAを志としています。他の民間金融機関の皆様と協調しながら、投融資一体型の創造的金融活動を行う中で、企業の非財務情報あるいは見えざる資産に着目して成長支援をするルーツを用意しており、現在「環境」「BCM」「健康経営」の3つの評価型融資制度として展開しています。社会の課題解決のために投融資活動を通じたCSRを実践しているものと考えております。

もう1つは、本シンポジウムのテーマそのものが、私が、現在所長を務めております設備投資研究所の活動にも大きく関係しているからです。設備投資研究所は今から約半世紀前の1964年7月に、前身にあたります日本開発銀行の一部局として設立されました。統合報告の動向につきましては、所内の経営会計研究室がフォローしていますが、弊所の活動のユニークな特徴の一つとしまして、サステナブルな経済社会の形成に不可欠な「社会的共通資本」を重要な柱の1つに位置づけ、所内に20年前に開設しました「地球温暖化研究センター」でフォローしています。「社会的共通資本」の概念は、弊所の顧問でもあります東京大学名誉教授の宇沢弘文先生が提唱されたものです。具体的には「自然資本、物的インフラ、制度資本（教育、医療、金融、企業システム等）」の3つの資本を指しますが、まさに、これは統合報告のフレームワークの中に登場する6つの資本の考え方と共通する部分があり、研究所のこれまでの活動とも親和性が高い領域であると考えられます。

この後行われるWICI統合報告開示優良企業の表彰も、今回主催者が初めて取り組まれた試みとお聞きしていますが、企業から「伝える」報告書が、それを受け止める読み手にとって、どのように「わかる」報告書となっていくのか、大変興味深いものがあります。今回のシンポジウムが、我が国の統合報告の形を世界に向けて発信していくまたとないきっかけになることを切に願っております。

ご清聴どうもありがとうございました。

以上